

平成28年1月20日  
在アンゴラ日本国大使館  
医務官 麻生有二

### 医療情報 ブラジルでのジカ熱の発生

在留邦人の皆様、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃より大使館業務に御協力を賜りありがとうございます。医療情報につきまして以下のとおりお知らせ致します。

昨年10月、ブラジルのペルナンブコ州保健局は26例の小頭症（奇形児）が発生したと発表しました。原因として、母胎へのジカ熱の感染が考えられております。2015年、ブラジルでは50万人から150万人がジカ熱に感染したと推定されています。その80%は無症状のようです。

#### 【発生地帯】

ブラジル 仏領ポリネシア、ハワイ等（アジア、オセアニア、中南米）

#### 【感染源】

ネッタイシマ蚊によるウイルス性感染

#### 【症状】

38.5度を越えない発熱と発疹（1～2日）、軽度の筋肉痛、関節痛、皮膚のかゆみ、目やにのいない結膜炎。重症化は少ない。時にギランバレー神経炎（四肢の筋力低下）。

#### 【治療法】

なし。発熱などの対症療法。

#### 【注意点】

妊婦に感染すると小頭症（奇形児）の発生が疑われる。そのため、妊婦、妊娠の可能性のある方は発生地域への渡航に御注意いただくとともに虫よけ対策を十分に行ってください。

# ジカ熱

ファクトシート 2016年1月作成



写真1

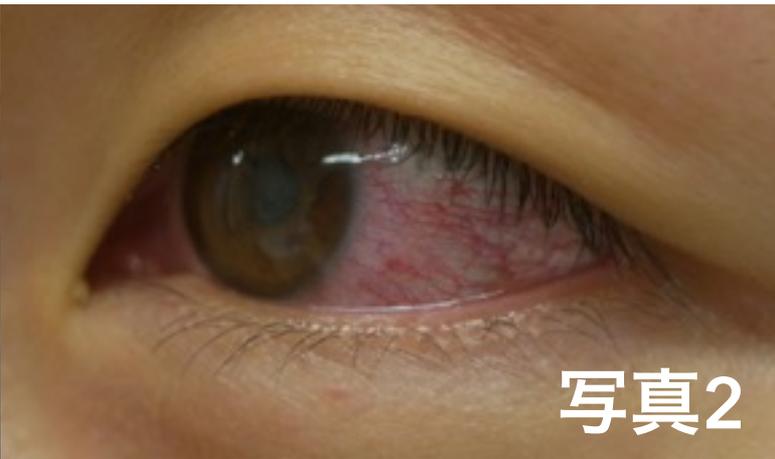


写真2

## ジカ熱とは？

- ▶ ジカ熱はジカウイルスによる蚊媒介性感染症でネッタイシマカやヒトスジシマカに媒介されます。
- ▶ 過去10年間にミクロネシアのヤップ島、ポリネシアのタヒチ島でアウトブレイクがあり、2015年からはブラジルを中心に中南米で流行しています。
- ▶ 2016年1月現在は、アジア、アフリカ、オセアニア、中南米でジカ熱に感染する可能性があります。日本ではこれまでに3例の輸入例が報告されていません。

## ジカ熱の症状は？

- ▶ 蚊に刺されて2～7日後に発症し、通常、微熱や頭痛、関節痛、皮疹（写真1）と眼球結膜充血（写真2）を呈する疾患です。
- ▶ デング熱のように重症化する症例はこれまでのところ報告されていません。
- ▶ 合併症として、稀にギラン・バレー症候群を発症することが報告されています。

## ジカ熱の鑑別診断は？

- ▶ 同じ蚊媒介性感染症であるデング熱とチクングニア熱に臨床像がとても似ています。
- ▶ デング熱とチクングニア熱に比べて、ジカ熱は高熱になりやすく、眼球結膜充血の頻度が高いという特徴があります。また、ジカ熱では発症して数日で皮疹が出現するのに対し、デング熱では発症して5～7日で出現することが多いとされます。
- ▶ その他、マラリア、腸チフス、レプトスピラ症、リケッチア症などの輸入感染症が鑑別診断に挙げられます。

## ジカ熱の診断は？

- ▶ ウイルスの遺伝子または抗体を検出することで診断します。
- ▶ 発症から3-5日以内では血液中にウイルス遺伝子が検出されることが多く、5日以降では抗体が陽性になることが多いとされます。
- ▶ 血液よりも尿からの方が長期間ウイルス遺伝子が検出されると報告されています。

## ジカ熱の治療は？

- ▶ 有効な治療薬はありません。頭痛や発熱などに対して対症療法を行います。

## ジカ熱の予防は？

- ▶ ジカ熱に有効なワクチンはまだありません。
- ▶ ジカ熱の流行地域で蚊に咬まれないことが最も重要です。ディートを含む虫よけをこまめに使用する、服装はできるだけ皮膚の露出の少ないものにする、寝るときは蚊帳を使うなど、防蚊対策を心がけましょう。

## 妊娠との関連は？

- ▶ 妊娠中のジカ熱への感染と胎児の小頭症発症に関連が示唆されています。
- ▶ 可能な限り妊娠中はジカ熱の流行地域への渡航は控えましょう。

### 参考文献

Emerg Infect Dis. 2009 Sep;15(9):1347-50.  
Euro Surveill. 2014 Jan 30;19(4). pii: 20683.  
Emerg Infect Dis. 2015 Dec;21(12):2274-6.  
BMJ. 2015;351:h6983.  
IASR Vol. 35 p. 243-244. 2014年10月号